Osaka University Knowledge Archive

Title	特集：変わりゆく外国語教育環境について
Author(s)	大前, 智美
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2019, 19, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73403
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

特　集

特集：変わりゆく外国語教育環境について

大前　智美（大阪大学）

大阪大学では 2000 年から CALL 教室を設置し、コンピューターを使用した外国語学習環境の構築を全国に先駆けて行ってきた。現在も豊中キャンパスに 5 教室、箕面キャンパスに 1 教室で計 295 台の CALL 端末を維持管理している。CALL 教室には一定数の安定した需要がある一方で、ここ数年は iPad に代表されるタブレットを使用した外国語学習環境の需要が高まり、大阪大学でも HALC(Handai Active Learning Classroom)に代表される iPad 教室や図書館内にアクティブラーニングスペースが設置されるなど、外国語学習環境は変化を求められている。当然のことながら、コンピューターにはコンピューターの良さがあり、タブレットにはタブレットの良さがある。今号においては、長く CALL 教室をお使いの先生や新しい外国語学習環境を活用される先生の語学授業実践例 5 件を取り上げ、最先端の外国語授業スタイルを提示する。

まず、Dave Murray 氏は、「実践英語」で CALL 教室を活用している。リスニング、スピーキングを含むコミュニケーションスキルをアップさせるためのコースである。CaLabo を使用し、学生間の会話をリアルタイムで確認し、評価を行う、パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行うなど、授業中のアクティビティを CALL の機能を使用し、観察、評価している。また、独自で授業評価アンケートを実施し、細かく分析し、CALL 教室を活用した授業実践へのアドバイスとしてまとめられており、今後の授業運営にとても役立つ内容となっている。

次に、岡田悠佑氏は、2019 年度に始まる新しい英語カリキュラムの導入を前に、「プロジェクト発信型英語」授業について、詳述している。岡田氏のプロジェクト発信型英語授業では、教室に集まった学生がプロジェクト成果の発表と議論という「実践」を行うことで、主体的、対話的、そして協働的活動による深い学びが得られる授業展開となっている。本稿では CALL 教室では特に一人一台コンピューターがあること、キーボードを使えること等の利点をあげながら、今後教室環境が変わっていく中でも、CALL 教室の「箱としての強み」を活かした今後への期待が記載されている。

岩根久氏は、フランス語初級文法の授業で、CALL 教室が設置された 2000 年から継続的に CALL 教室を活用する中で、フランス語初級文法をマスターするために必要不可欠な動詞活用学習のため、フランス語活用虎の穴」という活用練習ツールを作成した（http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~iwane/katsuyo/）。この「活用虎の穴」を行なっている間、CALL 教室のモニタリング機能を使い、学生がどのレベルまで進捗しているかを確認するなど、自身の開発ツールと CALL 教室の機能を併用することで、学生の進捗管理をスムーズに行なっている実践例の 1 つである。ただ、岩根氏は CALL の機能だけでなく、HALC での iPad を

使った授業にも取り組み、その利点も取り上げている。岩根氏は CALL 教室でもスマートフォンや iPad を併用し、様々なタイプの学習手段を利用した外国語学習について、新たな挑戦をし続けている。

小薬哲哉氏は、1 クラス 40 人から 50 人規模の英語授業において、一人一人の発表回数の少なさ、個別指導の機会の少なさを問題視している。これらを解決するために、iPad を活用し、英語プレゼンテーションを行なった実践例を提示している。授業形式、プレゼン時の学生の様子なども詳述されており、これから iPad を使って、このようなプレゼンテーション授業を考えている教員にとって、とても役立つ内容である。

最後の特集記事は、岩居弘樹氏のものである。岩居氏は、本年 6 月よりサイバーメディアセンターの教員であるが、全学教育推進機構にて HALC を設置し、iPad を使った語学授業を誰よりも先駆けて行ってきた。今、iPad を使った外国語授業を行う教員は少なからず 1 度は論文や講演を聞いたのではないだろうか。本フォーラムでは、ドイツ語を担当する岩居氏が、授業内外で学生が自分の声と姿を客観的に見る、自分の発音を自分で確認する、未知の単語を音で確認する、といったことを、今の時代だから容易に実現できることだとし、具体的な方法を提示している。実際に使用しているアプリのこと、学生からのフィードバックなども記載されており、これから iPad を使いたい教員にとっても、とても分かりやすく紹介されている。

以上、「変わりゆく外国語教育環境について」の特集として 5 本の記事が掲載されている。現在 CALL 教室や iPad を使った教育を行っている教員に対しても、これから新たにチャレンジしたい教員にとっても、これら 5 本の詳細な実践例はとても興味深いものであろう。ぜひ多くの方にご高覧いただければ幸甚である。

・Enhancing CALL using learner perceptions ―――――――――――――――――――― Dave Murray 5
・CALL 教室を活用したアクティブラーニング型英語授業 ―――――――――― 岡田　悠佑 11
・フランス語初級文法学習のための環境 ―――――――――――――――――――― 岩根　久 15
・iPad を活用した英語ポスタープレゼンテーション
　　―ICT 支援英語アクティブラーニングの実践報告― ―――――――――― 小薬　哲哉 19
・学びの成果をビデオに残す試み ―――――――――――――――――――――― 岩居　弘樹 25